



第35回会合における構成員等からの主なご意見

2022年5月12日
事務局

日本における透明性確保について

- 去年の10月頃のメタの内部告発の問題は海外や日本で報道されており、本検討会としてもそれを無視してはならない。特にこの調査との関係では、内部告発の中に、言語や国によって取組のリソースのかけ方が全然違うということもあったので、日本においてどうなのかということを明らかにする必要性は以前にも増して高くなっていると思う。【森構成員】
- 方向性として自由放任は難しく、共同規制で考えていくという方向性は異論ないが、その中で、方向性そのものについてどう考えていくのかがはっきりしていない。ゴールをきちんと定める必要がある中で、ゴールを普遍的・一般的なものにするというのが相当難しく、その議論を延々と続けるのもかなり難しいのではないかと思う。逆に社会的なコンセンサスをどうプラットフォームやSNSに反映させるかという仕組みを作るなど、様々な方向性で、SNSが自ら考えていくための仕組みのようなものを作っていくことが先ではないかと思う。特に透明性でこういった評価をしていくところ、重要なポイントが1つあり、例えばこの評価を見て、ここはできている・できていないや、優劣という判断ではなく、この方法だとこのようなリスクが残っているといったリスク評価をしていくようなモニタリングとその評価が、実は一番重要なのではないかと思う。その中で、各社がリスクに対応するための仕組みを義務化していくといった方向性で考えるほうが、現実的なのではないか。【寺田構成員】